

財務諸表論Ⅱ

科目ナンバリング ACC-204
選択必修 2単位

水守 理智

1. 授業の概要(ねらい)

財務諸表論を初めて学ぶ人のための入門コースです。但し、財務諸表作成の基となる複式簿記の知識があるという前提で授業を進めます。そのため、簿記論を履修済で日商簿記検定3級を合格する程度のスキルを持っている人の受講を推奨します。

財務諸表＝決算書から、企業の経営状態を読み解くための基礎知識を習得します。また、その知識を基に、実例と関連づけて、財務諸表を身近なものとして利用できるようにすることを目指します。
財務省評論Ⅱでは、財務諸表論Ⅰに引き続き、貸借対照表の負債の部、純資産の部の内容と損益との関係、もう1つの重要な財務諸表である損益計算書について学びます。
また、ビジネスシーンでの必要性を考慮し、連結財務諸表や税効果会計等の基礎についても学びます。

2. 授業の到達目標

- ①貸借対照表の負債の部・純資産の部について、その内容と損益との関係を理解します。
- ②社債や引当金などの各種負債、税効果会計・連結財務諸表について概要を理解します。

3. 成績評価の方法および基準

授業中の小テストやLMS上の課題の評価および出席状況などを含む日頃の学習態度30%、定期試験の成績70%です。単位の取得には原則3分の2以上の出席が必要です。

4. 教科書・参考文献

教科書

田中健二 『財務会計入門』第5版 (中央経済社)

参考文献

日本商工会議所簿記検定2級または3級の受験参考書 (TAC出版)ほか
桜井 久勝・須田一幸 財務会計・入門(第13版) (有斐閣アルマ)

5. 準備学習の内容

原則としては、毎回、授業の理解度を試すミニテストまたは課題を配布(またはLMSにアップロード)しますので、各自で解答を作成し自分の理解度を確認し復習してください。
ミニテストや課題の提出状況や評点は普段の学修状況の評価に使用します。
やむを得ず欠席した場合の対応としてレジメ等はLMSにアップしますので、自主学習に使ってください。

6. その他履修上の注意事項

簿記の仕訳から決算書作成に至るまでの一連の手続きを理解していることを前提に、何をどの時点でどういう金額で記帳されるべきかを考えるのが財務諸表論です。従って、理解のためには少なくとも商業簿記(日商簿記検定3級程度)を理解していることが必要となります。
レジメの掲載、課題の配布や提出にLMSを使用することがありますので、LMSが使用できる環境が必要です。

7. 授業内容

- 【第1回】 <オリエンテーション>
 - ・授業目的、授業方法、成績評価等の説明
 - ・実際の財務諸表を見る
- 【第2回】 <財務諸表論Ⅰの復習>
 - ・会計公準、企業会計原則、会計行為
 - ・棚卸資産、有形固定資産
- 【第3回】 <金融資産の会計 1>
 - ・金融資産の意義、分類
 - ・金銭債権の評価
- 【第4回】 <金融資産の会計 2>
 - ・有価証券の意義、分類
 - ・有価証券の評価
- 【第5回】 <負債の会計 1>
 - ・負債の意義、分類、評価、社債の会計、引当金、偶発債務
- 【第6回】 <負債の会計 2>
 - ・退職給付債務、資産除去債務
- 【第7回】 <純資産の会計>
 - ・純資産の意義、分類、払込資本、留保利益
- 【第8回】 <収益費用の会計>
 - ・実現主義と販売基準、工事契約、収益費用対応の原則
- 【第9回】 <税効果会計>
 - ・諸税金の処理、企業会計と課税所得計算の差異、税効果会計の仕組
- 【第10回】 <外貨換算会計>
 - ・外貨建取引の意義、外貨建金銭債権、外貨建有価証券、在外支店・在外小会社等の換算
- 【第11回】 <連結財務諸表 1>
 - ・意義、連結範囲、作成基準
- 【第12回】 <連結財務諸表 2>
 - ・持分法、セグメント情報
- 【第13回】 <財務諸表の分析>
 - ・主要財務比率、損益分岐点分析
- 【第14回】 <総締め>
 - ・春期および秋期に学習したことの総復習
- 【第15回】 <まとめと期末試験>